



描いてきたものは、夢

KAGAYAの美しい世界は、どこから生まれてくるのだろう。

彼の絵を見て心動かされる人間なら誰も、その原点に興味を持つのではないだろうか。

KAGAYAは言う「私はまだ夢を諦めていません」と。

子どもの頃から好きだった宇宙や星、月…。見たい、知りたい、行ってみたい、そんな好奇心から彼の世界が生まれた。

同じ場所に生まれ、同じ空を見上げる私たちは、彼と同じ夢を共感する仲間なのだ。

市長 新年明けましておめでとうございませぬ。
本日はデジタルグラフィックアーティストとして、国内外で活躍されているKAGAYAさんにお越しいただきました。KAGAYAさんは、絵画制作の全ての工程をコンピュータ上で行う「デジタルペインティング」という手法を用いて、主に星空を題材にした作品を制作されています。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。
KAGAYA 明けましておめでとうございませぬ。よろしくお願ひします。



星空を描く

市長 ことしの新年号は、KAGAYAさんの素敵な作品を表紙にしました。こちらの絵にも星空が描かれています。星をテーマにした作品を多く描かれているのには、やはり何か理由があるのでしょうか。

KAGAYA 物心ついたときから絵を描くのが大好きで、幼い頃は星だけではなく、恐竜や虫などいろいろな物を描いていました。当時私が住んでいた大谷地区では星がよく見えたので星を眺めているうちに、だんだん星の絵が多くなっていきました。もし都心で幼少期を過ごしていたら、ここまで星を好きにならなかったかもしれない。

市長 上尾に住んでいたことも深く影響しているのですね。星に興味を持ち、天文学を仕事として選ばれたのはなぜですか。

KAGAYA 星の絵を描くことで、気軽により多くの人に喜んでもらいたいと思ったからです。天文学者になることも考えたのですが「天文学」というとやはり難しい印象がありますよね。絵だったら一瞬で興味を引きつけられるのかな、と。

市長 絵に描いて説明するならば、子どもたちも「宇宙にはこんなものがあるんだ」と理解できますしね。

上尾出身 「夢に生きる星空のアーティスト」

～デジタルグラフィックアーティスト・KAGAYAさんと語る～



KAGAYA そうなんです。それで天文学を独学で学んで、それを絵にしようとして、グラフィックデザイナーの道を選びました。天文学者にならなければならぬ、今頃きつと研究せずに絵ばかり描いていたと思います(笑)。

デジタルペインティングという手法

市長 KAGAYAさんの絵は、とても緻密な作風ですよ。コンピュータ上で絵を描くというのは、具体的にどのような作業になるのでしょうか。

KAGAYA 「グラフィックタブレット」というペン型の道具で板の上に描くと、コンピュータの画面にそのまま現れます。この作業は頭の中にあるイメージを、真っさらな紙にスケッチするのと同じです。これを絵として完成させる場合は、着色して仕上げます。アニメーションにする場合は、彫刻をするのと同様な感覚で形を立体に作り上げ、それから動きを付けていきます。

コンピュータを使うことの利点は、一人でできる領域が格段に広がって想像することに集中できることです。その結果、絵だけではなく、プラネタリウムやアニメーションなど、さまざまな分野に挑戦すること

ができました。

『銀河鉄道の夜』への思い

～宮沢賢治を追って～

市長 KAGAYAさんのプラネタリウム作品『銀河鉄道の夜』を拝見したのですが、とても動きが自然で驚きました。映像も本当に幻想的で、大ヒットするのもうなげます。

KAGAYA ありがとうございます。自然な動きになるように時間をかけて調整を繰り返していった結果、制作に3年間もかかってしま

プロフィール



が が や
KAGAYA [デジタルグラフィック
アーティスト]

1968年、上尾市生まれ。幼い頃から星に憧れ、独学で天文学を学び星の絵を描き始める。埼玉県立浦和高校卒業後、東京デザイナー学院グラフィックデザイン科に入学。同校の卒業制作が製品化され、星座ポスターのベストセラーとなる。

絵画制作の全てをコンピュータ上で行う「デジタルペインティング」の手法を用い、星々を学術的な正確さで描き出すとともに、人の心を魅了する幻想的な世界を創り出す。

『銀河鉄道の夜』は、プラネタリウム番組としては異例の大ヒット作品。2010年に総観覧者数100万人を突破。全国のプラネタリウムで上映中。

ツイッター
KAGAYA (@KAGAYA_11949)



「グラフィックタブレット」を使って緻密な絵を描いていく

宇宙から地球を見てみたいので 宇宙に行く夢を私はまだ諦めていません

上尾の星空

市長 昨年は大きな天体ショーが3回もありました。新たに宇宙に興味を持った人も多かったでしょうね。

KAGAYA 金環日食などの現象は、自分たちの日常生活に非日常が現れるというのが面白いことだと思えます。私のような星が好きな人間は、非日常現象を世界中に見に行きます。冷静なふりをしていても、実は大騒ぎしたくしょうがないような気持ちになります(笑)。

市長 宇宙は本当に神秘的ですよ。特に金環日食は、上尾でも多くの人が宇宙を身近に感じる事ができた出来事だったと思います。

KAGAYAさんは、上尾丸山公園にある天文台はご存じですか。

KAGAYA 何回か行ったことがあります。数年前に火星が接近した時に見に行きました。人がたくさん来て並んでいたの、私も並びましたが、たいへんよく見えました。

市長 今でも丸山公園の辺りでは星

がよく見えま
すよ。

KAGAYA そうですね。JR上尾駅周辺だとなかなか見られませんが、丸山公園の辺りに行けば流星群も見られます。みんなで集まって観察したら、大人も子供も喜ぶ素敵な体験ができると思いますね。普段あまり星に親しみのない人でも、きっと楽しめると思います。

市長 確かに、見るきっかけやどう見たらいいかが分からない人が多いのかもしれないね。



昨年5月21日、上尾市で観測された金環日食
(撮影：広報課)

ました。

市長 この作品は星座を旅する物語ですが、やはり特別な思い入れがあったのですか。

KAGAYA 小さい頃母に読んでもらったから、自分でも繰り返し読んでいた作品です。当時、物語の意味は半分くらいしか分からなかったのですが、星座図と併せて読んでみると理解が深まっていき、さらに好きになりました。ですが、大人になってからも解明できない謎がたくさんあり、どうすれば解明できるのか考えた結果、宮沢賢治が生まれ育った岩手県花巻市の物語が描かれた場所に、直接行ってみることにしました。

市長 作っていく段階から現地を見てみるというのは大切ですね。私たちも仕事でいろいろな場所に行き

ますが、実際にその場に行ってみないと分からないことがたくさんあるというの、強く感じます。

KAGAYA 他の人が書いた文章や撮った写真は、書き手や撮り手の意思がどうしても反映されてしまいますが、自ら現場に行くことで自分なりに物語の世界を感じることができました。現地に行った他には、作品が書かれた80年前のことを調べて、答えを探していきました。

市長 宮沢賢治の世界を追っていくうちに、パズルのように次々に謎が解けていったのですね。

KAGAYA 謎解きをしていくうちに、あたかも自分がその世界の中に行ってきたかのような感覚になりました。「せっかくだから想像の世界だけでも行ってきたのだから、多くの人に銀河鉄道に乗った気持ちを味わってほしい」と思い、臨場感を味わえる、プラネタリウムの作品を作りました。その思いを皆さんに共感してもらえて、ヒットにつながったのかもしれない。



自然学習館に隣接している上尾天文台

KAGAYA 星の魅力をまだ知らない人たちに、楽しみ方を教えるのが私のライフワークの一つです。「今日この時間に空を見上げればこの星が見られる」という内容を、ツイッターなどでも発信しています。

市長 星空も少し想像を広げて眺めてみると、また違う楽しみができてうですよ。

KAGAYA 星空を見上げている時に、例えば「あの流れ星はどこから来たのか」という由来を知っているとさらに面白くなります。

市長 そういえば、この間久しぶりに大きい流れ星を見つけたのですが、一瞬の出来事で願う事はできませんでした。

KAGAYA 私もこれまで何千と流れ星を見ていますが、願う事ができ

きるような流れ星を見たことはありません。ほとんどが一秒以内に流れてしまいます。

市長 私が小さい頃は、上尾でも天の川が見えましたね。

KAGAYA 私の小さい頃も見えました。子どもは、大人とは違って、自分の行きたい所に簡単に行くことができるので、自宅で星が見られるというのは重要なことだったのだと思います。昔と比べて最近の子どもたちは、星を見る機会が少ないかもしれません。

夢に向かって

市長 KAGAYAさんは、子どもの頃から好きだった絵や星を現在の仕事にされていますが、子どもたちにこんな風に育ってほしい、という思いはありますか。

KAGAYA 今の子どもたちは、私たちの頃よりたくさん情報を持っていると思います。昔よりも簡単に調べたいことを調べられるので、興味のある事が見つかったら実際にそ

の場所に行ってみたり、体験してみたりしてほしいですね。周りの大人には「世の中にはこんなものがあるんだよ」と子どもたちに広い世界を教えてあげてほしいと思います。

夢を持ち続けることはとても大変なことですが、夢に向かって努力している時にはものすごいエネルギーが生まれます。実は私には宇宙飛行士になりたい、という夢がありました。宇宙飛行士にはなれませんが、どうしても宇宙から地球を見たいので、宇宙に行く夢を私はまだ諦めていません。今もどうすればいいのか、いつも方法を考えています。将来、技術が進歩して宇宙旅行ができる日を願い、一年でも長く生きていたいと思います。

市長 大人になっても夢を追い続けることはとても素晴らしいことです。

幼い頃から上尾で星空や自然に触れてきたKAGAYAさんですが、「こんな上尾市であってほしい」という思いや願いはありますか。

KAGAYA 都市化されていくほ

ど星空は見えなくなってしまうものです。でも便利になることは決して悪いことではないので、星が見える場所をちゃんと取っておいて、星が見たい時はそこに行く、ということができればいいと思います。上尾には便利な市街地と、自然が豊かで星が見える場所の両方があるので、今の状態を維持して行ってほしいと思います。

市長 都市と自然のバランスを保ちながら、住んでよかった、住んでみたいと感じられる上尾をつくることが私の夢でもあります。KAGAYAさんのように夢を持つ人を育む環境を次世代に伝えていきたいと思えます。本日はありがとうございます。これからも星の素晴らしさを世界中の人に伝えて、夢を与え続けてください。

KAGAYA どうもありがとうございます。

夢を持つ人を育む環境を 次世代に伝えていきたい



市長 島村 穰